

KICK BOXING 30th ANNIVERSARY 2nd.

全日本キックボクシング連盟vs日本キックボクシング協会
12月22日 後楽園ホール



▼「急に力が入らなくなった」という大柴はリングに倒れ込む。診断は全治3カ月とのことだ。



▲大柴の骨折を知らない佐久間はゴキゲン。

初のメインをK.O.で飾った佐久間 立嶋とタイトルを争う可能性も…

◀序盤からリーチの長い佐久間は大柴の攻撃を封じ、コンビネーションでポイントを稼いだ。

▼交流戦(10分5回戦)・3分5回戦
佐久間晋哉 (K.O.3回) 大柴ひろし
7勝6敗0引 (30秒) 10勝9敗0引 (5分5回戦)

当初予定されていた萬謙介vs土屋ジョーの団体交流戦は、萬の負傷により、1カ月前に急遽変更され、このカードが浮上。

佐久間は9月に元全日本バンタム級王者の東海太郎を判定に降している。5回戦はこれで2戦目ながら、メインに登場し、ベテランの大柴に挑戦した。

試合は、サウスポーの佐久間が初回から左ミドルとストレートでベースを握る。2回には、大柴の踏み込みに合わせて右フック、左ミドルをキヤッチして左ストレートもヒットさせた。そして3回、アクシデントは起こった。佐久間の左ミドルを受けた大柴の左前腕が折れてしまったのである。崩れ落ちた大柴はそのまま立ち上がることができず、ここで佐久間のK.O勝ちとなった。

試合後の全日本キックの宮田広報の話によると、今年の5月頃にフェザー級王座決定戦を行なう予定があるとのこと。そのための一ナメントには、佐久間、杉木応臣、梅下湧暉らが出場し勝ち上がった選手が、立嶋とタイトルを争うことになるという。

分裂後、空位のままになっているタイトルを果たして誰が手にするのだろうか。立嶋が4度目の王座に就くのか、それとも…



▼この日は、なんとモリス・スミスも観戦。